

**令和6年度文京区アカデミー推進協議会
第1回分科会(観光分野)概要記録**

日 時	令和6年7月22日(月) 18:27～20:06
会 場	文京シビックセンター21階 2101会議室
出席委員	座長 山田 徹雄 小能 大介、関 誠、近藤 裕子、塩澤 雅代
欠席委員	-
事務局	長塚アカデミー推進部長 堀越アカデミー推進部観光・都市交流担当課長 岡崎アカデミー推進課観光担当主査
資 料	次第、令和6年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。) 資料第2-1号、資料第2-2号
(議事) 1 議題 ◎委員意見 ◆事務局説明	<p>1. 令和5年度の事業実施状況の点検・評価について</p> <p><u>①分野別基本方針 区内まるごと周遊の促進について</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。</p> <p>◎先日タイ観光で日本語ガイドを頼んだが、その思い出が強く残っており、また行きたいなと感じた。人を介して、説明された内容は、非常に感銘を受け、頼んでよかったな、行って良かったなという経験になった。区も観光ガイドをもっと増やすといいのではないかな。人を介して交流を深めることがいいと思う。また、観光写真コンクールは、今後デジタル化を推進することで、更に上積みできていると思う。</p> <p>◆観光ガイドを増やすとともに、今後は、ガイドが更に活躍する場をしっかりと設けていきたい。花の五大まつり等でも、来訪者向けにガイドの方より区の魅力をお伝えいただいております。観光ガイド参加者には、文京区に愛着を持ってもらいたいと思っています。また、ガイドを行うボランティアにも、愛着を持つ機会としてもらいたい。SNS等の活用については、文京区を訪れた方が自主的に発信してもらうことが重要と考えている。区の作成するポスターなどはアップデートに時間を要してしまうが、知人や家族に対して、訪問者本人がSNS等で発信することは、即効性もあって良い。</p> <p>◎花めぐりの花の五大まつりの資料は、よく構成されていて、学生ボランティアなども大変盛んで、周知が行き届いていると感じた。しかし、区にはまだまだ観光資源が眠っていると感じる。留学生から神社の「茅の輪」について質問を受けることもあるが、神社を訪れるだけでなく、落語を聞く機会と結びつけると、歴史の深堀になると思う。観光資源を、歴史や芸能体験と結びつけることで、記憶に残るものになるのではないかなと思う。</p> <p>◆花めぐりに参加するお子さんには、小さいころから、地域のお祭りとの関わり等を育</p>

んでもらうとともに、学生ボランティアには、今後の祭りの担い手へとつながってほしいと思う。また、観光ガイドについては、常に内容をアップデートしており、単に観光施設の案内にとどまらず、歴史や、縁(ゆかり)など、区の魅力を伝えるために尽力していただいている。ガイドさんと区内を回ることで、新たな魅力発見につながってほしい。

◎小中学生向けのワークショップなど、祭りのまち文京プロジェクトは、こどもに伝統を学ぶ機会を与えることができ、非常にいい取組だと感銘を受けた。ワークショップなど、具体的な取組について聞きたい。また、観光ガイドツアーについて、参加者が倍増しており、とても評価できる。周知方法など、参加者数が増えた工夫について具体的な取組を聞きたい。

◆祭りのまち文京プロジェクトでは、参加されるお子さんに祭りの会場のほか、祭りの由来などを知っていただく取組をしている。また、観光ガイドツアー参加者の増加は、ツアー参加者から伝わり、そうした1つ1つの積み重ねが功を奏したと考えている。

◎ガイドマップを広く多くの方に見てもらう方法として、ホームページに観光案内のガイドマップに飛べる二次元コードを載せてはどうだろうか。情報が全くない外国人でも、アクセスしたらすぐに観光マップに繋がりと、音声ガイドなども聞けたらいいと思う。

◆観光情報の発信については、ホームページにガイドマップのデータを掲載している。ただホームページに辿り着かないと意味が無いので今後も検討を続けていきたい。インバウンド客向けには、約1500の海外旅行会社に区の情報を発信する取組をしている。また、ガイドマップは区内各所に、配架しており、さらに、東京駅近くのKITTE内にある東京シティアイにも配架しており、東京を訪れた観光客に繋がるよう工夫している。

②分野別基本方針 いつでも、どこでも世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有について

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎観光写真コンクールは、数多く出品があり、盛り上がっているのを肌で感じている。ただ、最近は個人情報関係で、顔が映っている、いい写真なのに、出品できないことが残念なので、何か良い方法が無いか。また、展示期間をもう少し長く設けてもらえると、より多くの人に見てもらえて良いと思う。写真コンクールは、区の広報としてとても良い取組だと思っている。

◆ご指摘のとおり、個人情報の取扱いには苦慮おり、人の映る写真は、活力に満ち溢れており、臨場感があって、活用したいと感じるが、撮影者本人の家族が映っている写真は使用できるものの、それ以外の方が映っている写真は、全員の同意を得るこ

とは困難なため、今後検討を深めていきたい。展示期間については、会場確保の問題もあるが、入選した写真は広報等に使用するなど、より多くの方の目に触れるよう活用している。今後も、様々な人の目に触れる機会を増やしていきたい。

◎SNSでの発信は効果的だと思う。誰が発信すると効果的かという点に着眼すると、区内は学生が多いので、学生が主体的に発信するよう、学生の持つ、裏技やテクニックなどを絡めて連携できないかと考える。それが、TikTokなどで共有され、区の魅力がどんどん発信されていくことが望ましい。例えば学生の文京区の推しを紹介するなど良いのではないか。

◎先の発言にも通ずるが、各大学の留学生に発信してもらうことが効果的と考える。留学生はよく区内を巡っており、そのことを家族などへ、写真やSNSで発信しているようなので、それを活用出来たら良い。区に半年～1年住むような留学生向けに、区の情報発信を案内できたらいいのではないか。

◆SNSは今後も強化する必要があると考えている。学生からの情報発信は大変重要と考えており、区には19の大学があるので、その数の学生目線で、区の魅力を発信していく仕組みづくりを検討していきたい。さらに、学生が学校やバイトとの往復だけではもったいないので、祭りなどへの参画も含めて、観光PRに参加してもらえるとありがたい。なお、令和4年、5年に実施した、留学生を活用した旅前という事業で、コロナ禍にインバウンドのお客様が来日できないときに、留学生が自身のSNSを活用して区の魅力を発信するという取組を行ったが、今後は留学生に限らず、学生全般に広げていけたらと思っている。

◎ホームページの新規ユーザー数というのは、人数ではなく、アクセス数なのかどうか知りたい。さらに、その属性が分かれば知りたい。また、ガイドマップは多言語で手に取りやすく作られており、とても評価できる。

◆ホームページのユーザー数については1人というカウントではなく、あくまでアクセス数となっている。また、日本からのアクセスが95%、アメリカからのアクセスが3%となっており、一定程度海外の方も利用している状況である。なお、属性のデータまでは取れていないが、利用者情報は、東京、神奈川、埼玉からのアクセスが9割を超えており、東京に通いやすい、近郊の方が利用していると認識している。

◎観光ガイドマップの作成部数が、目標値に届いていないが、作成部数がおさえられた要因は何か。

◆ガイドマップのリニューアルに際して、事業者と協議の上、より手に取りやすい内容にした方が良いという方針になり、冊子後方のマップ挿入や、様々な特集を組むなど、利用者の利便性を追求した結果、当初の想定よりページ数が増え、予算との兼

ね合いで、今回の作成部数となった。

◎イベント毎に作成し、会場の配付で終わってしまうパンフレットを、区でChatGPTなどを活用して、翻訳し多言語化した上で、電子データ等をSNSなどで発信する取組はできないか。なかなか個々で多言語化する対応は難しいので、区でそうした対応をしてもらえるとありがたい。

◆花の五大まつりは区のホームページや区報等でも発信している。さらに、大手メディア、新聞にも事前に情報提供し広く周知している。パンフレットについては、ホームページにイベント詳細も含めて掲載しており、SNSへの発信は観光協会が担っている。なお、区のホームページがリニューアルされ、サイト内の文章は、多言語対応とされているが、個別のパンフレットデータを全て翻訳する対応は、現時点ではハードルが高いと考える。

◎お祭りのパンフレットについては、例えば経済課や子育て支援課などが実施するイベント会場へ横断的にパンフレットを置かせてもらうなどの連携ができると、良いと感じた。

◆横断的な取組は、積極的に行っていかなければならないと感じている。また、周知に関連して申し上げると、今年の朝顔ほおずき市にもたくさんの外国人が来ていたが、彼らとその情報をどこで得たか分からないので、今後は情報源をしっかりと把握し、その上で、先を見据えた情報発信をするといった、検討をしているところである。

③分野別基本方針 つながりから生まれる観光の推進について

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎イベントにおいて、人の集まる場所を見ると、食や物産等に偏っており、そこに力を入れるべきと考える。買い物目当てでも、それをきっかけに足を運ぶことで、文京区を知る良い機会である。

◆食、物産等は大変多くの人を惹きつけるため、それをきっかけに、まずは区に訪問していただき、国際交流に興味の無かった方も、フェスタでの体験を通して、次の交流に繋げてもらうことを目標としている。また、スポーツ、文化に興味がある方なども同様に、入ってきてほしいと考えているので、スポーツや文化と横の連携を持ちつつ、知る機会を提供していきたい。

◎東京ドームでプロ野球やコンサートがある時、区に沢山の人が来ており、その人達に、次は文京区へ訪問してもらえるよう広報できると良いと思っている。

◆東京ドーム来場者数には、我々も魅力を感じており、数千万人の東京ドーム来場

者を文京区へ繋げたいと考えている。東京ドームシティや展望ラウンジまでは来ていただけだが、さらにその先の文京区への訪問に繋がる仕掛けを検討しており、今年度もスタンプラリーなど、区内を周遊するイベントを準備している。

◎都市交流フェスタの来場者が昨年度に比べて増えているが、どういう工夫をされたのか。キッチンカー出展などがキラコンテンツという話はあったが、来年度に向けた取組を知りたい。

◆国際交流フェスタを都市交流フェスタへと広げ、普段は無関係の活動を行っている団体にも、活動を披露する場を設けることで、参加を促し、団体に属している方や、その家族などが多く来場されたと考えている。体験などを取り入れたことが大きく変化した部分とも考える。

④分野別基本方針 何度でも訪れたいおもてなしの環境整備について
協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎花の五大まつりにおいて、梅まつりは68回を迎えており、いずれのまつりも花の寿命が近づいていると考えている。実際、梅は寿命を迎え、自力で植え替えを進めているが、花の生産者も年々減っており、次代に繋げていくことに懸念を抱いている。また、花を生産する土地が減り、花づくりをやめる生産者が増えていることが心配である。区で、植え替えるための予算、生産者の後継者を育てる支援、土地確保の支援など、踏み込んだ補助を希望する。花の五大まつりの根底が崩れてしまうのではないかと不安を感じている。

◎東大農学部は広大な土地があり、様々なサークルもあるので、東大のサークルに向けて、花の生産に協力してくれるよう働きかけてはどうかと思う。

◆ご指摘いただいた生産者の高齢化について、区でもまつりの担い手である実行委員会等の高齢化を把握しており、次代に繋がる取組を検討しているが、花の生産者の減少は新たな気付きでもあり、今後関係する部署等と考えていきたい。また、東大農学部については、これに限らず、区内に19大学とあり、他の自治体にはない環境を十分に活かしていきたい。

◎この分野でも、外国人の活用が大事だと考えており、そのためには、大学との連携が重要だと思っている。ガイド制度について、大学と連携して周知することが良いのではないか。

グルメマップに掲載されている飲食店は、大変熱心であり、細かくリサーチのうえ掲載されていて評価できる。外国人は圧倒的に情報が少ないので、グルメマップを多言語化するなど、SNSの活用と併せて、ピンポイントでグルメ情報を外国人に届けることで、東京に来た外国人が少しでも文京区に足を運んでくれるきっかけになるのではな

いか。

◆学生については、おまつりに参加していただけるよう、イベント等の事業で大学と連携していきたいと考えている。なお、旅前の情報発信でも、1回目は参加したが、次に繋がらないことが多く、根付かなかったことが課題としてある。大学との連携では、そうした課題の要因を明確にすることで、広げていきたいと考えている。グルメマップについては、海外への発信で現物を送ることや、区のホームページにアクセスしてもらうことも難しいので、グーグルマップなどに、イベント情報や外国人が飲食できる場所をリンク出来るような、一元的に情報を得られる仕組みを検討したい。

◎ガイドマップの冊子はほぼ全てが網羅されており、魅力的ではあるが、ページ数が多いと費用も掛かる。京都などは、駅に1枚ものの地域ごとのガイドマップがあり、手軽に手に取れるので、贅沢なガイドマップも良いけど、それぞれエリアを分けて、1枚の手軽なマップを置くのも良いのではないかと。エリア別にマップがあることが分かれば、次回は別のエリアへと繋がると思う。

◆エリア別のガイドマップは、1つのアイデアとしてとてもいいと感じたので、今後検討していきたい。

◎オーバーツーリズムの問題は文京区で起こりうるのかどうか。また、起きた場合の対策は考えているのか。

◆区の6割が住宅街で、ホテルや繁華街も少ないため、区ではオーバーツーリズムまで辿り着かないという想定である。ただ、谷根千など一部スポットではあり得るので、近隣住民と観光客の双方にとってより良い観光となるよう、しっかりと注視していきたい。

◎大学を巻き込んだ話について、アカデミア講座などで、1つの分野ではなく、例えば「桜」をテーマに、「桜と文学」、「桜と絵画」、「桜と歌舞伎」など様々な分野からの連続講座を組んではどうか。

◆いただいたご意見は、実施主体の(公財)文京アカデミーと共有する。

◎リユースのイベントを資源環境部と東洋大学が連携して、実施するものがあるが、参加学生は単位を修得できることにした結果、10人目標のところ、17人の応募があった。単位の修得については賛否あると思うが、学生のニーズとしては、就職に使える材料であり、観光の視点から見ると、学生の意見は参考になると思う。大学と相談になるとは思うが、学生を動かすきっかけになる。

◆区でも、大学向けに観光施策や事業を紹介する場があり、学生は区では考え付か

	<p>ないアイデアを持っていることは確かで、今年はゼミの学生から政策提言などの機会を設けた。引き続きそうした機会を活用し、事業に反映できるものは反映していきたい。</p> <p>◎東洋大学では、ビールを作って、あじさいまつりで販売するなど、他の大学も色々作って販売しているようなので、区のイベントなどに大学から出店してもらうのはいいのではないかと。</p> <p>◆個々に自治体や団体と連携している大学も多くあり、フェスタには、多くの団体や大学に参加してもらっている。区では、大学連携担当者会議があり、区からの発信はできるが、大学側の情報をピンポイントにキャッチすることは難しいため、今後工夫して、取組みを進めていきたい。</p>
2 閉会	